



2004年 6月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

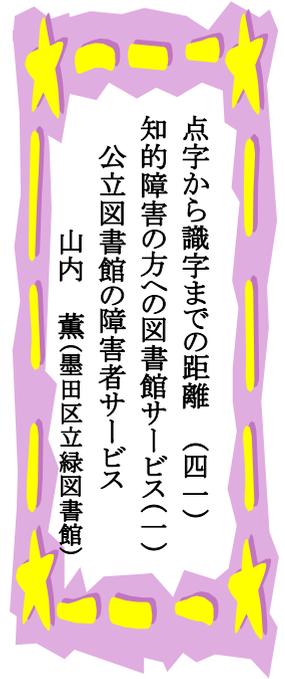
2004年6月
第44号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
 〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
 発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
 編集責任者 宇田川 幸 子



目 次

連載「点字から識字までの距離」(41) (山内 薫)	1
骨髄移植について (平瀬 徹)	4
主要症状に対する理療施術(1) (小池上 惇)	8
「今日の中国の特徴と日中関係」(前編) (村田 忠禧)	10
酔夢亭読書日記 (安田 章)	14
漢文のページ	17
本会の漢点字訳活動の基準 (岡田 健嗣)	19
漢文のページ	17
ご報告とご案内	22
平野久美子と短歌鑑賞	26



点字から識字までの距離 (四一)
知的障害の方への図書館サービス(二)

山内 薫(墨田区立緑図書館)

前号から、この『うか』と『うずれば』が合体し、新たな体裁の冊子として生まれ変わりました。トータルヒューマンネット二一の設立趣意書の中に、具体的な活動として知的障害者のグループホームを立ち上げたいと記してありました。そこで今号から公立図書館の知的障害者サービスについて何回か書かせていただくように思っています。とは言っても全国の公立図書館で知的障害の方へ積極的にサービスを実施しているところはほとんどないというのが現状です。その反面、どの図書館にも必ず何人かの熱心な知的障害の利用者がいることも事実です。六年前、全国の公立図書館を対象に調査を行ったところ知的障害者の利用がある」と回答した図書館は三二八館で、調査対象館およそ二、六〇〇館の一・二%にあたり、その人数は二、一三九人でした。これは、視覚障害者(五三二館、一四、

八三六八)、肢体障害者(六四〇館、三、六七六人)、施設入所者(一一七館、二、六〇二人)に次いで四番目に多い数となっています。(『図書館が変わる 一九九八年公共図書館の利用に障害のある人々へのサービス調査報告書』日本図書館協会障害者サービス委員会編 日本図書館協会 二〇〇一)

一方、東京の最新データでは、およそ二三〇の図書館のうち六八館(三〇%弱)で九一人が利用しており、視覚障害者(四、五一五人)、肢体障害者(一、三八七人)に次いで三番目に多くなっています。(『東京の障害者サービス二〇〇三』東京都公立図書館協議会図書館利用に障害のある人々へのサービス研究会 二〇〇三)

この二つの調査では、図書館側が知的障害の方を意図的に捉えているか、そうした施設や授産所に対してサービスをしているか、利用者の数としてはあがってきませんので、おそらくこの数値の数倍の知的障害の方々が図書館を利用しているものと思われまます。しかし、それでは具体的にそうした方たちにはどのようなサービスやアプローチを行っているかということについては、ほとんど顕在化しておらず、どちらかといえば迷惑な利用者として見られているのが現状ではないかと思えます。

一〇年ほど前のことになりましたが、ある図書館関

係の集会で行き会った図書館学を学んでいる大学生から次のような話を聞いたことがあります。



その学生がアルバイトをしていたある三多摩の図書館で、職員と一緒に窓口をやっていた時、入口から知的障害の方が入ってくると、その図書館の職員はすかさず「ここはあんたたちの来るところではない」とその人を追い出したというのです（その学生は即その図書館でのアルバイトをやめたということです）。確かに知的障害の方の中には館内で大きな声を出したり、奇声を発したりして、他の利用者から眉を顰められたり、「静かにしろ！」と怒られたりする方がいることも事実です。また、利用規則がなかなか理解できなくて、貸出制限を越えてCDやビデオなどを借りたと言ってくる方などもあります。しかし、そこで図書館がそうした人たちを追い出してしまったたり、要望を受け止めずに拒否してしまったりすることは、その方たちの人権を無視してしまふことになりますし、ひいては地域社会からも排除してしまふことになりかねません。

私の勤務する墨田区立緑図書館にも多くの知的障害の方が来館してくれています。また、肢体障害者・知的障害者の授産施設にも月一回出かけていって

貸出をしています。そうした経験の中から公立図書館での知的障害者サービスの可能性と今後の方向を考えてみたいと思います。

その前段として、今号と次号は公立図書館の障害者サービスについて現在までに考えられている事を書いてみます。多くの市民や図書館利用者は、公立図書館が心身に障害のある人に対して、あるいは図書館利用に障害のある人に対して、様々な取り組みを展開していることをほとんどご存じないと思います。また、この障害者サービスはやっとなにに就いたばかりで、すべての図書館で実施されているというわけではありません。しかし、今後の公立図書館の役割や方向を考えていく上で、この障害者サービスは図書館の原点にもなりうる重要なサービスであると考えていきますので、一緒に考えていただければ幸いです。

公立図書館が心身に障害のある方々に対するサービスを意識的に取り組みはじめたのは、およそ三〇年前に視覚障害者の団体から公立図書館の開放を求めるアピールが出されたことに遡ります。「一般人たちが自由に利用できる公立の図書館を自分たちも利用する権利がある」と訴えたそのアピールは、当時、身体障害者更正援護施設として位置づけられ、ボランティアによって資料が製作、蓄積されて

きていた福祉施設の点字図書館では、自分たちの読書する権利が保障され得ないことを述べ、教育施設であり、すべての人に公開されるべき公立図書館、そして点字図書館と比べて圧倒的な蔵書量を持つている公立図書館を視覚障害者にも開放するように求めたのです。こうした視覚障害者の訴えに応じる形で、対面朗読という画期的なサービスが始まることになりました。視覚障害者のための資料としては既に点字図書館で点字図書や録音図書が作られていましたが、そうした資料を作成するにはとても時間が掛かりますし、製作する人を育てなければなりません。しかし、対面朗読はその場で求められた資料を読むというサービスですから、利用者が図書館を訪れさえすればいつでもその場で読むことができるのです。

これらの視覚障害の方へのサービスは、対面朗読以外は既に点字図書館が先行して実施していましたから、公立図書館でも視覚障害者サービスの範は点字図書館に求められることになり、今では全国で五〇〇の図書館が点字図書を所蔵し、五〇〇館が録音図書を所蔵して視覚障害者サービスをを行っています。ところが、これらの資料を製作している公立図書館ということになると、録音図書

でおよそ一七〇館、点字図書になると七〇館余と激減してしまいました。また、点字図書館ではほとんど取り組まれていない拡大写本サービスなどは未だに公立図書館でもほとんど取り組まれていないという現状です。（前掲『図書館が変わる』）ちなみに漢点字を所蔵している公立図書館は一〇館程度、製作している公立図書館は全国でも録音図書館くらいではないかと思えます。



肢体・知的障害者授産施設「すみだふれあいセンター」三階の食堂前の窓際に資料を並べて月に一回昼休みに貸出を行っています。

ですから、障害者サービスとは言っても、現状ではほとんどが視覚障害者サービスであり、点字図書館で行っているサービスをそのまま公立図書館が引き継いで行っているという状況なのです。

その他に、図書館まで来館することができない利用者の自宅まで資料を届ける「宅配」を実施している図書館がおよそ二〇〇館、施設への貸出をしている図書館がおよそ二五〇館、入院患者へのサービスを行っている図書館がおよそ六〇館、受刑者へのサービスを行っている図書館が三〇館弱という現状です。

(いずれも前掲『図書館が変わる』)

骨髄移植について

平瀬 徹

私はガイドヘルパー講座の講師をさせていただくときには、必ず点字もカリキュラムに入れていただくようにしています。支援費の契約書や報告書を利用者自身が確認できるように、ヘルパーさんにも事業所のサービス提供責任者にも点字を知ってほしいからです。

その効果があつてか、事業所の親睦会に招待されると、三角籤やビンゴカードに点字表示をしていただけることが多くなりました。また、地元の点訳サークルに入会して活動して下さる方もいらつしやいます。羽化の会の新年会にご一緒した高嶋裕美子さんも、ローローで漢点字訳をして下さっています。

とてもうれしいことです。

そんな中、昨年六月にガイドヘルパー講座を受講して下さった方と何度か点字のお便りをやり取りするうちに、その方が骨髄バンクを介して骨髄を提供なさったことがあること、その後も骨髄バンクのボランティアを意欲的になさっていることを教えていただきました。そして、私もドナー登録をさせていただきました。

また、昨年八月の漢点字フェスタでは、骨髄バンクの点訳サークル「ほたる」の方ともお会いし、ぜひ漢点字の資料も作ってほしいとお願い致しました。

そこで、今回は骨髄移植についてお話ししてみたいと思います。



骨髄とは

骨髄は、腰や胸の骨の内部にある海綿状の組織です。血液はここで作られます。そこは、骨髄液で満たされていて、その液体の中には、血液成分の元になる骨髄幹細胞（造血幹細胞）が含まれています。骨髄液が作る主な血液成分には、体内に酸素を運ぶ「赤血球」、病原体から身を守る「白血球」、出血を止める「血小板」などがあります。骨髄移植は、患者さんの、病気におかされた骨髄幹細胞を、ドナーの方の健康な骨髄幹細胞と入れ替えて、正常な造血機能を回復させる治療法です。

移植後は、血液型はドナーの型に変わってしまいます。つまり、親族のそれよりも血が濃くなるわけです。

骨髄移植に必要なのは血液型の一致ではなく、白血球のH1V型というもので、兄弟姉妹では四分の一が一致しますが、親子では希にしか一致しません。非血縁者（他人）では、数百〜数万分の一の確率でしか一致しないそうです。

現在骨髄バンクにドナー登録している方は十八万人程だそうですが、三十万人の登録があれば殆

どの患者さんのH1V型が一致すると言われていきます。

骨髄移植の実際

実際の骨髄移植は、主に以下のように進められます。

一・前処置

患者さんは、骨髄移植の約二週間前から移植の準備に入り、大量の薬の投与や放射線の照射を受けます。その結果、患者さんの骨髄幹細胞はすべて壊され、血液が作られなくなります。激しい吐き気や全身の脱毛などの副作用に耐えながら患者さんは命がけの治療に取り組むことになります。

二・骨髄移植

移植当日、健康なドナーの方から採取された骨髄液は、通常の輸血と同じように、点滴で数時間かけて、患者さんの静脈に注入されます。

三・造血回復から社会復帰へ

患者さんは、無菌室で拒絶反応や感染症などに注意しながら、安静に過ごします。やがて移植された骨髄液が働きはじめ、正常な血液を作るようになります。一般の病棟に移されます。そこで良好な経過をたどれば、退院し、社会復帰ができます。

骨髄移植は四、五日の入院が必要

骨髄移植に当たっては、ドナーの方に四、五日の入院が必要です。骨髄採取の前々日か前日に入院し、検査等が行われます。

骨髄液は、骨盤を形成する腸骨から専用の針をさして行います。採取は手術室で、全身麻酔を行い、五〇〇〜一、〇〇〇ccの量を採ります。採取時間は、一〜三時間ほどです。通常は、採取後二〜三日で退院できます。

採取後は、鈍痛がしばらく残るようですが、通常は採取の翌々日には退院し、通常の生活に戻ることができません。

骨髄移植のリスク

骨髄移植に当たっては、ドナーの意思と安全が最優先されることは言うまでもありません。

ドナーが骨髄を移植するための入院費や手術費は患者さんがすべて負担しますが、休業補償はありません。ひよっとすると会社を休むことでリストラされるかもしれません。

通常はすぐに仕事に復帰できますが、術後の痛みには個人差があり、一カ月くらい鈍痛が残る方もいらっしゃるそうです。

ドナーの死亡例は血縁者間で三例（内日本で一例）あり、日本の一例が腰椎麻酔によるものだったため、以後は必ず全身麻酔で行われているそうです。いざというときに備えて挿管しておくことがドナーの安全のための教訓になったようです。通常、ドナーが移植する病院を選ぶことができますが、患者さんが海外の方の場合などは、空港に近い病院で移植手術を受けなければならぬこともあるそうです。

手術を必要としない骨髄移植

一・同種末梢^{まつしゅう} 血幹細胞移植

ドナーの末梢血中に循環している造血幹細胞を血球分離装置によって大量に採取し、これを骨髄移植と同様の方法で移植する治療法です。なお、通常末梢血中にはこの造血幹細胞はごく

僅かしか循環していませんが、顆粒球コロニー刺激因子（G-CSF）という薬をドナーに投与すると、より多くの造血幹細胞が骨髓から動員されてくることが判っています。

しかし、この薬物投与の複作用がまだ十分に確認されていないこと、何度も薬物投与や献血のために通院しなければならぬことなど、ドナーに対する負担が手術による移植よりも多くなることも考えられます。

二．さいたい 臍帯 血移植

臍帯血には、骨髓と同様に、血液を作り出す細胞「造血幹細胞」がたくさん含まれており、出産時に臍帯血を採取すれば多くの患者さんを救うことができます。

ただ、臍帯血の凍結保存は採取後二十四時間以内に分離保存施設へ搬送して処理しなければならぬため、どこでもできるといふわけには行きません。

大病院などで出産する方は重篤な方が多いため、採取に適せず、個人の産婦人科を中心に行われているのが現状です。

視覚障害者のドナー登録

骨髓バンクへのドナー登録は、次のような手順で行います。

一．『チャンス』という小冊子を熟読します。

骨髓移植推進財団のホームページからPDF版を入手したり、活字版を申し込むこともできます。かな点字版もあります。



二．キャンペーン登録会や保健所などでビデオを見て、その内容を充分理解できたら、100ccの採血を受けて登録します。

ビデオは二種類あって、キャンペーン登録会用のものは短く、画面が見えないと内容を充分理解することはできないと感じました。

名古屋で今年三月に鍼灸マツサージ師対象の勉強会を行いました。このときは詳しいほうのビデオを上映しながら、画面の説明もしていたいただきました。また、三人の方から生のドナー体験もお聴きすることができました。

「家族が血液の病気になったら移植する」と考えている人は多いと思います。しかし、みんなそう思っていたら、非血縁者間の移植は成立しません。救われるはずの命が救われないかもしれません。

この拙文をお読みいただいた方の中で、一人でも骨髄移植に関心を持って下さる方がいらつしやればうれしいです。

主要症状に対する

理療施術（一）

小池上 惇

昨年の八月まで、東洋医学の概要について書きましたが、今回から数回に分けて主な症状に対する按摩・マッサージ施術について書きたいと思えます。

もし、読者の皆様の中でこんな症状について知りたいという希望がありましたら、岡田さんの方までお知らせください。

一 肩こり

（一）肩こりの概念

肩こりとは、肩上部から項部、あるいは肩甲間部に及ぶこわばった重い感じ、などの不快な訴えをいいます。

普通いわれる肩こりは、疲労が原因で、その部分の血行が悪くなるために起こるものです。軽いものなら、全身の運動をしたり、ぬるめの入浴をしたり、ホットパックで三十分ほど暖めるだけでこりがとれて楽になります。頭が重い、目が疲れる、体が怠くて気力がない、食欲が進まない、朝からあくびや居眠りが出るなどの症状を伴う肩こりは疲労が蓄積されたために起こります。肩こりは、疲労の他に高血圧症、動脈硬化症、精神神経症の一症状として起こることもありますから、頑固な肩こりは専門医の受診をお勧めします。

（二）東洋医学的な見方

後頭部から頸部側面にかけてのこわばりを頸項強といい、胆経の病証、首筋から背中に

かけてのこわばりを項背強といい、膀胱経の病証といわれています。その他、肩には多数の経絡が走っており、こりや痛み場所と経絡の関係に注意する必要があります。

臓腑では、目の疲れによる肩こりは肝、食欲不振や便秘を伴う肩こりは胃の病証が考えられます。

(三) 肩こりの治療

ア 治療方針

主な目的は、頸肩部の緊張を緩解し、疲労物質を除去することですが、局所治療ばかりでなく全身状態の改善も必要です。

イ 按摩・マッサージ・指圧施術

頸肩部など凝っている部に揉捏法・圧迫法・按摩法・叩打法などを行います。揉捏法とはむむむこと、按摩法とはなでること、叩打法とはたたくことです。

次に背部、上肢、下肢と順々に施術し、全身状態の改善



を図ります。

肩こりの時にこりの現れやすい筋肉は、僧帽筋、菱形筋、肩甲挙筋、脊柱起立筋などです。僧帽筋は後頸部から肩背部にかけ位置する筋で、そのこりに対しては後首の天柱、肩上部の肩井・天りよう、脊柱両側の肺俞・心俞などの経穴を用います。肩甲挙筋は肩甲骨の上にある筋なので、そのこりに対しては肩甲骨上角の近くにある曲垣を用います。菱形筋は肩甲骨の内縁にある筋なので、そのこりに対しては肩甲骨内縁の膏肓という経穴を用います。脊柱起立筋は背骨の両側にある筋で、そのこりに対しては背骨の両側にある肝俞・腎俞・大腸俞などを用います。

ウ 併用する物理療法

ホットパック・遠赤外線・低周波などを用います。ホットパックと遠赤外線は温熱療法、低周波は電氣的刺激によつて筋肉の循環を改善する効果があります。

エ 肩こり体操

次の①から⑤までの体操を、



患者に家庭で行うように指導します。
各体操を十回程度行いますが、一つの体操のあと少し休んで次の体操に進みます。

- ① 拇指と四指との間を開いて両方の手掌を側腹部に当て、深呼吸を行う。息を吐くときに両手で腹部を押さえるようにし、体を丸める。
- ② 首を左右に交互に曲げ、次に前後に交互に曲げる。
- ③ 左の手掌を左側頭部に当て、頭と手で押し合う。同様の動作を右側頭部、前頭部、後頭部でも行う。
- ④ 両手掌を胸の前で合わせ、ひじを張る。手掌同士で押し合う。
- ⑤ 肩すくめ運動を行う。

今回は、頸腕症候群について書きます。



〔左記は、横浜国立大学教育人間科学部教授の村田忠禧先生が、本年四月十六日に、横浜東ロータリークラブで行われた卓話です。中国と我が国をめぐる、極めて現代的な課題に言及されておられます。紙面の都合で、本号・次号と、分載させていただきます。ご精読下さい。〕

卓話演題

「今日の中国の

特徴と日中関係」前編

横浜国立大学教育人間科学部教授

村田 忠禧

今日は横浜東ロータリークラブの例会における卓話の機会を与えてくださり、ありがとうございます。

私はこの機会に、ロータリークラブのみなさまが留学生への支援活動を行なってくださっていることにたいし、心からの感謝の意を表明します。みなさまの留学生への支援活動は日本と世界各国

との人々の相互理解のために大変有意義なことであり、われわれ大学で彼らにたいする教育を担当している者として心からお礼を申し上げます。

私はさきほどご紹介にありましたとおり、川崎市高津区梶ヶ谷に生まれ、育ち、今もそこで生活し、横浜で働いている者です。いわば地元の間であります。かねがね地域のみなさまに日頃自分が研究していることを紹介したいと思っておりますので、今回このような機会を作ってください。

私は現代中国を研究テーマにしておりますが、今回の演題である「今日の中国の特徴と日中関係」について、さて具体的に何をお話ししようか、と考えていたところ、三月末に日中間でいわゆる尖閣諸島における中国人の上陸問題が発生し、日本でも中国でもこの問題が大きく取り上げられました。そこでまずこの問題についてお話ししたいと思います。

歴史的経緯

と申しますのは、この事件が発生する前の昨年十二月に日中コミュニケーション研究会が主催した

研究報告会・シンポジウムにおいてこの問題について報告をしたことがあります。その関係で、この事件が発生した直後の三月二十六日の東京新聞にこの問題についての私の発言が紹介されました、また本日お手元に配布した通り『日本と中国』という社団法人日中友好協会の新聞にも短い文章を発表しました。あとでご覧いただけると幸いです。

このような経緯がありますので、私が本来話そうと思っていたこととはやや違うことになりませんが、やはり日本と中国との関係を考えるうえでは大切なことでもあるので、まずいわゆる尖閣諸島の問題について、特に日本ではほとんど紹介されていないことがらをここに紹介いたします。

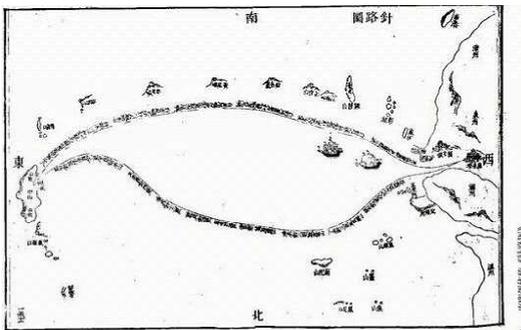
尖閣諸島（当初は尖閣列島といいました）という呼び方は実は1909年に初めて登場します。それはPinnacle Islandsの翻訳であります。しかしこれらの島は中国の文献・地図などには遅くとも明の時代にはつきりと中国の領域にあるものとして記載されています。その一例として、1562年に胡宗憲・鄭若曾が編纂した『籌海図編』巻二の「福建使往日本針路」を紹介いたします。これは中国の福建から琉球に使節が行く航路を記したもので

す。そこに釣魚嶼、黄麻嶼、赤坎嶼と記されているのがのちに日本で尖閣諸島と呼ぶ島々です。

 前七五五號 又有從島沙門開洋七日即到日本 若陳鏡山至日本用長針 福建使往日本針路 梅花東外山開船用單辰針乙辰針或用辰針 針十更船取小琉球 小琉球奎丸邊船見鷄籠嶼及梅花莊彭嘉山 彭嘉山北邊邊船遇正南風用乙卯針或用單 卯針或用單乙針西南風用單卯針東南風用 乙卯針十更船取釣魚嶼 釣魚嶼北邊邊十更船南風用單卯針東南風 用單卯針或川乙卯針四更船至黃麻嶼 黃麻嶼北邊邊船便是赤嶼五更船南風用甲 卯針東南風用單卯針西南風用單甲針或用 單乙針十更船至赤坎嶼 赤坎嶼北邊邊船南風用單卯及甲寅針西南 風用長寅針東南風用甲卯針十五更船至古 米山 古米山北邊邊船有礁宜知畏避南風用單卯 針及甲寅針五更船至馬崙山 馬崙山南風用甲卯或甲寅針五更船至大琉 球	 前七五五號 又有從島沙門開洋七日即到日本 若陳鏡山至日本用長針 福建使往日本針路 梅花東外山開船用單辰針乙辰針或用辰針 針十更船取小琉球 小琉球奎丸邊船見鷄籠嶼及梅花莊彭嘉山 彭嘉山北邊邊船遇正南風用乙卯針或用單 卯針或用單乙針西南風用單卯針東南風用 乙卯針十更船取釣魚嶼 釣魚嶼北邊邊十更船南風用單卯針東南風 用單卯針或川乙卯針四更船至黃麻嶼 黃麻嶼北邊邊船便是赤嶼五更船南風用甲 卯針東南風用單卯針西南風用單甲針或用 單乙針十更船至赤坎嶼 赤坎嶼北邊邊船南風用單卯及甲寅針西南 風用長寅針東南風用甲卯針十五更船至古 米山 古米山北邊邊船有礁宜知畏避南風用單卯 針及甲寅針五更船至馬崙山 馬崙山南風用甲卯或甲寅針五更船至大琉 球
---	---

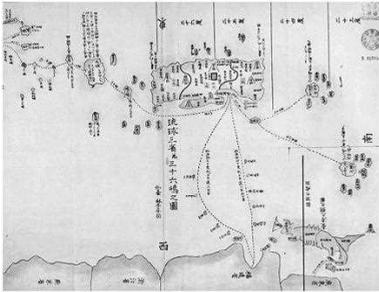
明治以前には沖繩は琉球と呼ばれ、独立した国でした。その琉球の国王が新たに就任する時には中国から冊封使という使節がやってきて信任することが不可欠でした。当時は帆船の時代ですので、使節を乗せた船は夏至の頃の南西の風を利用して福建の福州から那覇を目指して進みました。その際の航海の

目印としてこれらの島々はとても重要な役割を果たしました。次の図は福州と琉球とを往復する時の針路を示した「針路図」です。福州を出発した帆船は台湾の北東沖合から花瓶嶼、彭佳山、釣魚台、黄尾嶼、赤尾嶼、姑米山（今日の久米島）、馬齒山（今日の慶良間島）、那覇へと進むルートがはっきりと記されています。ここで重要なことは赤尾嶼から深い海溝を渡り、久米島にたどりついてようやく琉球の領域に入ったという意識を中国側、も琉球側いずれもが共有していたことです。



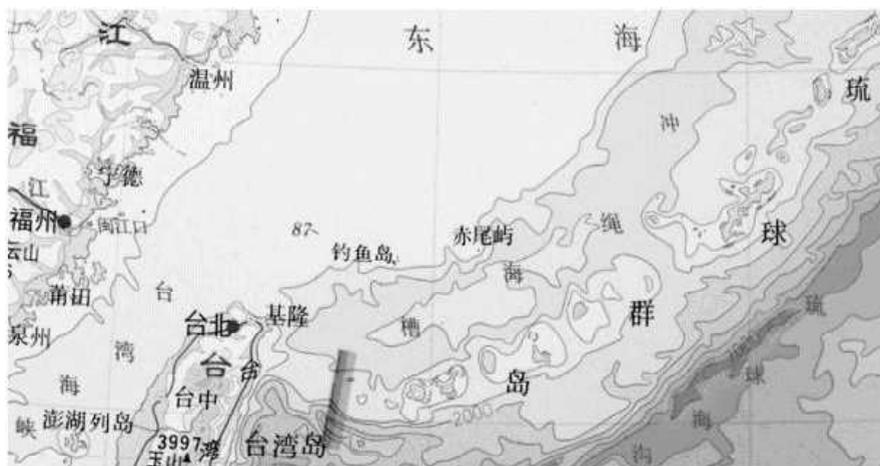
当時の中国（明、清）、琉球、そして日本いずれも琉球国の範囲については明確な認識がありませんでした。それは琉球三十六島といって、本島と附属する三十六の島々によって琉球という国は構成されていた、ということですが。

江戸時代に日本人の林子平が著わした『三国通覧』付図「琉球三省并三十六島之図」は色分けして琉球、日本、清国を描いています。そこに釣魚台、黄尾山、赤尾山という名称で問題の島々が登場しますが、福建省や浙江省と同じ色で描かれています。当時の日本の知識人はこの島々の存在を知っていたし、そこを琉球の一部ではなく、中国の一部と見なしていたことはこれでも明白です



琉球（今日の沖縄）の人々がこれらの島々を琉球の範囲と見なしていなかったことには客観的な根拠があります。というのは釣魚嶼、黄尾嶼、赤尾嶼（今日、日本が尖閣諸島あるいは尖閣列島とよぶ島々）と先島諸島との間には200メートルにも達する海溝が存在していて、小さな舟では渡るこゝとができません。それにたいして先島諸島の間、あるいは先島諸島と沖縄本島との間は浅い海で繋がっていたため、琉球三十六島のネットワークが成立していたわけです。

一方、台湾、福建、浙江など中国の沿海からは200メートル以下の大陸棚が伸びています。釣魚嶼、黄尾嶼、赤尾嶼はこの大陸棚の縁に位置しています。ですから南西の風を利用して福建から那覇に向う帆船は、大陸棚に点在するこれらの島々を目標にして進みました。またこの周辺海域で漁撈する漁民たちにとって、海が荒れた場合の避難場所でもあったのです。こういう点で中国の沿海で生活をする人々にとってこの島の存在は身近なものでしたが、沖縄の人々にとっては必ずしもそうではなかったといえます。このような事情は地図を見れば一目瞭然です。



(次号へ続く)



酔夢亭読書日記 第四回

安田章

「借金（金銭消費貸借契約）」

その他お金を巡る問題について

その一

人間が自由にそして自立して生きるためにはお金に振り回されないことも重要なことのひとつであると思う。独立独歩を説いた福沢諭吉先生が実学を説いたのもまさに、このお金の問題をこそ人の生き方にあつてはもつとも基本であり、お金を上手に使うことと自由と独立は無関係ではないことを深く洞察していたからだろうと酔夢亭は思うのである。

蓋し、バブル崩壊以後、世の中はすっかり世知辛いものになり、貧すれば鈍する、有様である。お金なんか有ろうと無かろうと品性変わらぬ精神の高貴さを保っていたいなどと夢想する酔夢亭の如きは、時代錯誤の先カンブリア時代の化石みた

いなものである。「おやじく、なにわめいてんだよー」、「うざいんだよおく」って、若者たちにバカにされるのがオチである。

しかし、浜の真砂が尽きても泥棒が居なくならないように、或いは男と女がこの世の中に居る限り色恋沙汰が無くならないように、お金がある限り、借金問題というものが必ず出てくるのも確かなことである。

ドストエフスキー、石川啄木、内田百閒先生などは言うまでもなく、古今東西の少なからぬ文豪、芸術家たちは借金に苦しみ、借金をバネとしておのれの才能を大きく開花したことは皆様ご存知の通りである。

文豪、芸術家であれば、借金も愛嬌、才能のうちにもられるし、後生に名も残るから救われもしよう。だが、我ら凡才、凡人、名も無き庶民が借金を返せなくなるとどういうことになるか、敢えて言えば悲惨の一語である。

ということ、今回以降は、借金問題についていろいろ考えてみたいと思う。

基本的コンセプトは、借金なんかには負けないで元気に明るく生きていきましよう、ということ

ある。

酔夢亭は行政書士でもあるので、法的なアプローチも試みたいと思う。

「借りたカネは返すな！」 加治将一、八木宏之共著

加治将一氏は作家、不動産投資家であり、八木宏之氏の肩書きは企業再生屋である。後ほど登場してくる吉田猫次郎氏は個人再生屋である。

再生屋とは死にかけの企業や個人を生き返らせる仕事と言って良いだろう。死にかけていると言っても、病原菌などによるものではなく、金欠病によるもので、主な症状は借金で首が回らないとか、借金取りにおいかけまわされたり脅かされたりして、精も根も尽き果ててしまった状態のことである。

「夜逃げ、自殺といった後ろ向きな発想は捨てましょう、事故を装った保険金が目当ての自殺、後を絶たない駅のホームからの飛び込み自殺が一件でも減ることを切に望んでいます」と八木氏は訴える。

そう、そのとおり、借金なんかで死ぬことは

ない、借金とは踏み倒すもの也、と力強くかつ逞しく宣言しようではないか。が、自分がその当事者になったとき、現実の状況はそう易々と力強くかつ逞しくさせてくれるだろうか？

「腎臓売れ、肝臓売れ、目ん玉売れ」で有名な商工ローンの怖い取り立て屋が家にやってきて凄まじくも堂々として動じないような態度を取れるものかどうか、自信はないが、勇氣は持ちたい。腎臓は一日に血液を一八〇リッターも濾過する大切な臓器である。



肝臓だって目ん玉だってかけがえのないものである。借金のカタなんかで取られてたまるもんかい！と心で叫んでも、なにせ借金しているという負い目がある。

借金は余り感心できない、ましてや借金を返さないなんてとんでもないことだ、という強迫観念が日本人にはあるようだ。

借金って言葉が良くないのかも知れない。シャッキン、語感も良くない。

金銭消費貸借契約、というのはどうだろうか。外国語みたいで良いではないか。契約だから、ギブアンドテイク、義理人情負い目はない。互いに

信義誠実に義務を履行し、権利を行使すればよろしいわけだ。よし、これにしよう。

ということ、借金と言うことばを使わず、今後は金銭消費貸借契約という語でこの項を統一していきたいと思う。

さて、次回以降のキーワードを挙げておくと、自己破産、サービサー法（債権管理回収業に関する特別措置法）、リスケジュール、自宅を守る、特定調停法、利息制限法、金利の引き直し、民事再生法、不当利得返還訴訟、連帯保証などがある。

具体的に金銭消費貸借の問題点を考えていくつもりである。

以下次号



漢文のページ

望湖樓醉書

〔北宋〕蘇軾

黒雲翻墨未遮山

白雨跳珠亂入船

卷地風來忽吹散

望湖樓下水如天

望湖樓醉書

黒雲墨を翻(ひる)がえして未(いま)だ山を遮(さえぎ)ら
ず 白雨(はくう)珠(たま)を跳(おど)らせ乱(ら)れて船に
入(い)る 地(ち)を巻(ま)き風来(かぜ)たつて忽(たちまち)吹(ふ)き散(ち)ずれ
ば 望湖樓下(ぼうころうか)水(みづ)天(あま)の如(ごと)し

望湖樓 西湖のほとりにあつた高殿。

醉書 酒の酔いにまかせて書きしるす意。

白雨 雨にわか雨。夕立の大粒の雨をいう。

水如天 水面が大空のように青々と澄み渡る。

黒雲が墨を流すように拡がり、山を覆い隠そうと
する。大粒の雨が真珠をとびはねさせるように船
に降り注ぐ。それを突風が吹きとばし、(晴れわ
たる)望湖樓から見下ろす水面は空のように青い。

回(り)郷(て)

偶(き)書(す)

〔初唐〕賀知章

少(せう)小(せう)離(れ)家(か)老(らう)大(だい)回(かい)

郷(きやう)音(いん)無(む)改(かい)鬢(びん)毛(もう)摧(たい)

兒(じ)童(どう)相(さう)見(けん)不(ふ)二(に)相(さう)識(し)

笑(しょう)問(もん)客(かく)從(じゆう)何(なに)處(ところ)來(きた)

郷(きやう)に回(かえ)りて偶(たま)々(たま)書(か)す

少(せう)小(せう) (しょうしょう)家(か)を離(はな)れて老(らう)大(だい) (ろうだい)にし
て回(かえ)る 郷(きやう)音(いん) (きやういん)改(かい)まる無(む)く鬢(びん)毛(もう) (びん
んもう)摧(たい) (おとろ)えたり 兒(じ)童(どう)相(さう)見(けん)て相(さう)識(し)ら
ず 笑(しょう)つて問(もん)う客(かく) (かく)何(なに)れ(れ)の處(ところ)より來(きた)ると

偶書 思いつくまま書き記す。偶感を記す。

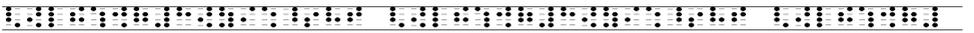
少小 年の若いこと。年少。「老大」に対応。

老大 年老いていること。「少小」に対応。

郷音 「音」は発音。郷里の言葉。

鬢毛 こめかみあたりの頭髮。

若い頃家を離れ、年老いて帰ってきた。お国な
まりはそのままで、びんの毛はすつかりうす
くなり、子どもたちは顔を見てもわからずに、
「おじさんはどこの人」と笑いながらたずねる。



望湖樓醉書

黒雲翻シテ墨ヲ未ダ遮
 ラ山ヲ

白雨跳ラセ珠ヲ亂レテ入
 ル船ニ

卷キ地ヲ風來タツテ忽チ
 吹キ散ズレバ

望湖樓下水如シ天ノ

回郷偶書

少小離レテ家ヲ老大ニシテ
 回ル

郷音無ク改マル鬢毛摧ヘタリ

兒童相見テ不相識ラ

笑ツテ問フ客從リ何レノ
 處來タルト

前号の訂正とお詫び

p. 13(誤) → (正)

p. 14 (誤) 逾 ッ → (正) 逾 ヌ (誤) 看 ッ → (正) 看 ヌ

(誤) ※ 「絶句」の逾と看の後のおどり字「ヽ」は、「ッ」と同じで「ヽ」になります。

(正) ※ 「絶句」の逾と看の後のおどり字「ヽ」は、「々」とし、「ヽ」になります。

(参照図書)に続く、以下の記載が抜けたことをお詫びいたします。
 遠藤哲夫『語法詳解 漢詩』(旺文社)『漢文の初級コース』(學燈社)

本会の漢点字訳活動の基準

代表 岡田 健嗣



去る・本年二月十五日に、大阪府吹田市の、故・川上泰一先生宅をお訪ねして、漢点字協会会長である川上先生の奥様と、同会の理事である加藤俊和様にお会いして、漢点字の現状と将来について、お話をさせていただく機会を得ました。

本会からは私と木下、漢点字使用者の、東京在住の田中秀臣様と木村多恵子様にご一緒していただきました。

その折りに加藤理事のお口から出されたことが、ある意味で、その場の結論かと思われしますので、ここに、それに添った、私どもの見解を申し上げたいと考えます。

なおこれは、来る七月四日（日）に予定されている、協会の「記号検討委」に、私も出席させていただくことから、その席へ向けての見解とさせていただきます。

一・本会の活動から見た、漢点字訳の

対象となる書籍

二月十五日の会見で、加藤理事から、記号検討委で検討されている漢点字訳の対象となる書籍について、「普通の読み物」とお伺いしました。

この点については、私どもも、特に異存のないものです。しかし、残念ながら当日は、この〈普通〉についての意見を、交換することはできませんでした。

そこでこの「普通の読み物」という表現について、私はかなり広い範囲を指したものと解しましたので、もう少し輪郭をくつきりさせてみたいという衝動を覚えています。

本会では当初から、「読書に意欲を持つ人のニーズに応える」ということをコンセプトに、漢点字訳を活動として来ました。この意味を、ここに今一度反省してみたいと思います。

〈川上先生から〉

私たち漢字を学ぶ機会のなかった視覚障害者に

とって、「漢点字」の出現は、「福音」と言っても過言でないものでした。私が漢点字を習得して、さてこれをどう使おうかと考えているころの川上先生のご発言から、「漢点字」は読むための文字だと、確信するようになりました。読むための文字なら、読むものが要だ、それを作らなければいけない、そう考えるようになって、現在に至りました。

〈教養〉

既に死語となった観のある言葉ですが、「教養」というのが、この「漢点字」には、最もふさわしい語ではないかと考えています。

〈教養〉は、ドイツ語の *Bildung* の訳語として流布された語で、人間の成長、人格の形成、生涯の艱難辛苦を乗り越えるための力を養う、そういう意味合いを持った語で、心の栄養というような意味の言葉です。

幸いに、書店へ行けば、「教養・娯楽」という分類の本に出



会うことができずし、大学の講座でも、「教養課程」が設けられています。この「教養・娯楽」というと、「教養」が娯楽に食われる様子を想像しますが、考え方によっては、「教養こそ娯楽だ」と言ってもかまわない訳で、一緒に楽しもうではないか、私はそう思っています。

書店の棚の、「教養・娯楽」に対する語としては、「学術・専門・研究」というのがあります。

つまり、「教養」とは、学術でない、専門的でないもの、しかも人間の心の栄養になるもの、ということになるようです。

〈教養書〉

「教養書」と言われる本は、では、どのようなものを指すのでしょうか。

誰が読むか(？)、成人、あるいは成人に達しようとしている人。

どんな内容か(？)、中学校以上の学力に裏付けられた常識に訴えようとするもの。

読んでどうするか(？)、知的好奇心の満足、常識の改変、新たな視点の獲得。

こんなところが「教養書」と呼ばれる本に求め

られているものかと思われず。

このように考えて参りますと、私どもが活動の対象としている書物が、自ずと姿を現して来るようです。

二・点字符号

本会の活動は、一般の書籍を漢点字訳することにあります。

どのような点字を採用するか、それを含めた活動のあらましを、以下のようにまとめてみました。

(一) 漢字カナ交じりの漢字の部分は、漢点字によつて表す。

(二) カナの部分は、従来の日本語点字を採用する。ただし、ひらがなとカタカナを区別するために、カタカナを、カタカナ符号で囲んで表す。

(三) 従来のカナ体系の日本語点字の分ち書き法は、採用しない。

(四) 文字以外の記号類は、従来の日本語点字のそれを、可能な限り踏襲する。ただし、必要な記号が見出せない場合は、それに相当する点字符号を作成する。また、記号とし

ての点字符号は存在しても、墨字の文書記号との対応が明らかでないものは、検討する。

(五) 数字は、従来の算用数字の書記法を標準とするが、漢数字での表記も可とする。

(六) 本会の漢点字訳書の製作は、日本語文を対象として検討して来た。しかし、日本語文は、あらゆる文字・記号類を包含して表記されるのが特徴である。日本語本文中に、外国語が交じることも珍しくない。そのようなものに対しては、英語を例とすれば、英語の表記法に則つて行う。他の外国語にも、可能な限り、同様に対応する。

(七) 本会が使用している現行の点字符号は、決して固定的なものとは考えないが、符号の変更には、十分な試行と検討を要するものと考え。

三・結論

従来のカナ体系の点字の表記に関しては、日本点字委員会が、その方式を検討・決定していますが、周知のように、数年ごとにその表記の変更を行っています。この変更は、点字を使う者にとっては、決

して望まれるものではありません。まるで、身体より短い夜着にくるまれて就寝するようで、肩を覆えば足が出る、足を庇えば肩が冷えると感じられるものです。

漢点字による漢字カナ交じり文を表す点字符号には、そのようなことが起きないように、充分検討される必要があると考えます。

言語が違い、使用する文字が違うので、比較は困難ですが、欧米では、点字符号の構成に対する検討が、より周到に行われているという印象を、私は持っています。

点字にも墨字にも通じていて、しかも母国語としての言語にも通じている人たちが、検討に当たっているという印象を、強く受けています。

我が国でも、点字の表記法の検討が、欧米各国と同様に行われるようになれば、点字の使用に当たって、もっと安心して向かえるのではないかと考えます。せめて漢点字の世界では、加藤理事のおっしゃるように、色々な意見のすり合わせと、試行テストと聞き取り調査を通じて、よりよい表記法の確立を志したいものと考えます。

〆報告と〆案内

日本盲人社会福祉施設協議会の

表彰を受けました。

去る五月一四日（金）、日本漢点字協会のご推薦で、本会の活動が、日本盲人社会福祉施設協議会から、表彰されました。

表彰式は、愛知県名古屋市の観光ホテルを会場に、名古屋盲人情報文化センター（名古屋ライトハウス）を主館に催されました。

本会からは、名古屋に在住の、平瀬徹さん、森眞由美さんと、名古屋のボランティア・グループ大樹会の高嶋裕美子さんにご出席いただきました。



た。ご多忙中、大変ご足労をおかけしました。深く御礼申し上げます。また、ご推薦をいただきました協会にも、深く感謝申し上げます。まだまだ満足にはほど遠いものがございますが、本会ばかりでなく、漢点字を志向しているボランティアの活動に、社会の視線が向けられつつあることの証かと考えております。

これをバネに、活動の更なる広がりに繋がることを願って止みません。



横濱国立大学の公開講座に、漢点字を取り上げていただきます。

七月三十一日（土）に催されます、横浜国大の公開講座『二十一世紀の漢字文化を考える』で、漢点字を取り上げていただくことになりました。本会代表の岡田が、その講師を務めさせていただきます。

詳細は案内記事をご覧ください。多数のご来場をお待ち申し上げます。

漢点字講習会

今年度も、横浜市のご後援をいただいて、漢点字の講習会を催します。

五月二三日（日）に、第一回目を行います。

テキストも徐々に整いつつあります。お近くの方で、受講を希望される方がございましたら、どうぞ、ご紹介下さい。



漢点字変換プログラム・

EIBRKKWの点文字符号について

EIBRKKWの点文字符号を、一部改定しました。

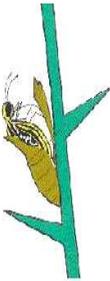
カギ括弧などの記号の改定と、コーテーション・マークの左右にスペースを入れるなど、ごく僅かではありますが、変更しました。詳細はお問い合わせ下さい。

E-MAIL:

eib_okadaya@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL:

<http://ukanokai.web.infoseek.co.jp>



横浜国立大学教育人間科学部

平成十六年度公開講座

講座名 二十一世紀の漢字文化を考える

講師 村田 忠禧

(横浜国立大学教育人間科学部教授)

馮 良珍

(横浜国立大学教育人間科学部教授)

岡田 健嗣

(横浜漢点字羽化の会代表)

開催会場 神奈川県民センター 402室

(横浜駅西口)

TEL:221-0835

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

TEL:045-312-1121(代)

FAX:045-312-4810

開催日時 七月三十一日(土)

十時から十七時まで

受講料 三、〇〇〇円

日本と中国における漢字をめぐるいくつかの課題（簡略化、点字と漢字、インターネットと漢字）について紹介し、国際化、情報化の時代に対応する漢字文化を考えます。

かつて日本や中国で、漢字は近代化、コンピュータ化の足かせと見なされ、いずれは滅びるものと考えられた時代がありました。しかし現実には漢字は滅びなかっただけでなく、それぞれの仕方で近代化し、コンピュータやインターネットの発展にも対応できるようになりました。ただ近代化への対応がそれぞれの国単位で行われたため、いろいろと混乱や矛盾が発生しています。

本講座では新しいレベルでの東アジアの漢字文化の再統一の可能性という視点から、漢字文化を捉え直すことをします。具体的には大きく分けて三つのテーマで問題提起をいたします。

- ① 日本と中国におけるコンピュータにおける漢字コード体系の現状と問題点について
- ② 日本と中国との漢字改革の共通性と個別性、およびその統一化の可能性について
- ③ 漢字を表現できる点字Ⅱ「漢点字」とは何か、およびその国際化の可能性について

本件についてのお問い合わせ、お申し込みは左記までお願いいたします。

横浜国立大学教育人間科学部

公開講座担当係

〒240-8501

横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

電話 045-339-3255

その他、不明な点がありましたら、

村田忠禧 murata@edhs.ynu.ac.jp

まで電子メールでお問い合わせください。





ゆう べ ゆう べ の わ が さ び し さ の 樹 々 の 揺 れ
 三三三三三三三三 三三三三三三三三 三三三三三三三三

な べ て 過 程 の な か の 惑 い か
 三三三三三三三三 三三三三三三三三

にししょう よういち
 西 勝 洋 一
 三三三三三三 三三三三三三

やがて来る夏の光に向って樹々の緑の深まる季節。

もう若葉とは呼べない葉群はむらを茂らせて、風に揺れる樹々に作者の思いが映されています。

少し甘い表現とも思える上句は、その甘さゆえに青春を感じさせてもいます。

下句の「過程のなかの」という表現には内省的な作者の姿があります。

人は自己を感じはじめた頃から、惑いながら生きてゆくものなのでしょうか。

た どり 来 し 道 し ら じ ら と み ゆ る と き
 三三三三三三三三 三三三三三三三三 三三三三三三三三

いまは 迷 は ず ゆ く べ き の み か
 三三三三三三三三 三三三三三三三三

と き ぜん まろ
 土 岐 善 磨
 三三三三三三 三三三三三三

迷いながら、惑いながら、それでも一步一步たどり来た道だったのでしょいか。

それがあつ時期になつてしらじらと道の行方がみえるようになったのです。

もう、ここまできたら迷わずにこの道をゆくしかないかと、心定めた作者です。このような一首に出会つと、どこかホツとする思いです。

時代も環境も違つそれぞれの作者の二首が相呼応するように思えました。

編集後記

表紙絵 岡 稲子

「あの頃…46歳の夏目雅子さんに会えたにちがいない」日本広告機構（AC）のCMが印象深く心に残ります。骨髄移植のリスクを読んで「ドナーの負担が少なくなれば…（休業補償）健康だけが取り柄のリストラ世代の夫でも…」フツと考えてしまいました。

次回の発行は8月15日です。 宇田川 幸子

※本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断りします。